



2022-03-29
No.22-018

報道関係各位

2022 シーズンは計 16 人が成績などに応じた支援を実施 源田壮亮選手、岸潤一郎選手が 新たに社会貢献活動をスタート！ 高橋光成投手と武隈祥太投手は追加で新たな活動を開始



(左から)源田選手、岸選手、高橋投手、武隈投手

埼玉西武ライオンズの選手たちは、自身の経験などをもとに社会貢献活動に取り組み、成績に応じた金額の寄付などを以前から行っておりますが、2022 シーズンより新たに、源田選手が社会福祉活動を行う団体への支援、岸選手が障がいのある方々への支援活動をスタートいたします。また、高橋投手は現在行っている災害救助犬の支援に加えて、故郷の群馬県の森林を守る環境支援の活動を始めるほか、難病の子どもとそのご家族への支援活動を行っている武隈投手も、いじめを無くす活動への支援を新たに開始いたします。

今年1月に父親となった源田選手は、子ども食堂や児童養護施設などの支援をスタートいたします。昨シーズン盗塁王に輝いた俊足を生かし、自身が盗塁を決めるごとに2万円を積み立て、合計金額の半分を埼玉県社会福祉協議会の「子ども食堂・未来応援基金」に、残りの半分を出身地の大分県の「大分県社会福祉協議会」の子ども食堂・子どもの居場所づくりの推進分野に寄付いたします。

3年目のシーズンを迎える岸選手は、障がい者のサポートなどを行っている埼玉県の事業への支援を始めます。公式戦においてホームランを放つたびに1万円を積み立て、埼玉県の「シラコバト基金」の障がい者福祉分野に寄付いたします。

群馬県沼田市出身の高橋投手は、地元の自然環境を守る活動を新たに始めます。幼少の頃から自然豊かな緑に囲まれて育ち、自身のグローブも緑色のものを使用するなど好きな緑を後世に残したいという思いから、自身の勝利数につき2万円を積み立て、「ぐんま緑の県民基金」に寄付いたします。

武隈投手は、いじめを無くし、子どもたちの笑顔を守る活動をしている団体の支援をスタートいたします。自身が登板した試合ごとに2万円を積み立て、合計金額の半分をいじめ撲滅のために活動を行っている団体へ寄付し、もう半分を2019 シーズンから行っている難病の子どもたちなどを支援している団体に寄付いたします。

なお、佐々木健投手も増田投手などが以前より支援を続けているドナルド・マクドナルド・ハウスへの支援を今シーズンから始めます。そのほか、今井達也投手、平井克典投手、内海哲也投手兼投手コーチ、佐野泰雄投手、平良海馬投手、森友哉選手、山川穂高選手、外崎修汰選手、中村剛也選手、栗山巧選手の10選手も、社会貢献活動を実施いたします(※)。

詳細は次項のとおりです。

※一部の選手はこれまでの社会貢献活動の内容を変更いたします。
各選手の活動内容については本資料の3枚目をご参照ください。

【源田 壮亮選手コメント】

今年1月、源田家に第一子となる男の子が誕生しました。この子には幸せになってほしいと思うと共に、悲しい思いをしているこどもがひとりでも減ってほしいという気持ちが私に芽生え、こどもたちに対しての活動をしたいと考えるようになりました。ひとりでも多くのこどもたちに力をあたえられよう、今シーズンも果敢に次の塁を狙って行きたいと思えます！



<源田選手の支援内容>

・こども食堂・こどもの居場所づくりを支援(新規)

2022シーズンの公式戦において、自身が盗塁を決めるごとに2万円を積み立て、合計金額の半分を埼玉県社会福祉協議会の「こども食堂・未来応援基金」に、残りの半分を出身地の大分県の「大分県社会福祉協議会」のこどもの居場所づくりの推進や児童養護施設のこども達の支援分野に寄付。

【岸 潤一郎選手コメント】

新型コロナウイルスの影響から、マスクで口の動きが見えずにコミュニケーションがとりづらくなったり、距離を保つため身体的なサポートがしづらくなったりするなど、障がいを持つ人たちの生活も様変わりしたと聞きました。娘が生まれつき障がいを持っていて以前から障がいを持った方々に対して何か力になれないかと思っていました。そうした方々がひとりでも多く幸せになれるように、今シーズンは昨年以上のホームランを打つことを目標に、力強くバットを振っていきます。



<岸選手の支援内容>

・障がいのある方を支える地域福祉を支援(新規)

2022シーズンの公式戦において、1本塁打ごとに1万円を積み立て、埼玉県の「シラコバト基金」の障がい者福祉分野に寄付。

【高橋 光成投手コメント】

僕が育った沼田市は自然が豊かな町で、そんな環境で育ったからか緑色が大好きなんです。もちろん、グローブの色も緑(笑)！地元群馬県の緑を守る活動は僕にぴったりだと思い、すぐにこの活動を決めました。災害救助犬の支援活動も引き続き行いますので、できるだけ多くの支援ができるようにマウンドに上がり、多くの勝利を届けたいと思えます。



<高橋投手の支援内容>

・群馬県の豊かな森林を守る事業を支援(新規)

2022シーズンの公式戦において、自身が勝利した数につき2万円を積み立て、地元群馬県の「ぐんま緑の県民基金」に寄付。

・地震や豪雨災害などの現場で活躍する災害救助犬を支援(2021シーズンより継続)

2022シーズンの公式戦において、1登板ごとに2万円を積み立て、「NPO法人日本捜索救助犬協会」に寄付。

【武隈 祥太投手コメント】

僕が生まれた地域でいじめによる悲しい出来事があったニュースを目にして、何か自分にできることはないかと思い立ち、今シーズンからはこどもたちの笑顔を守る活動も始めます。以前から継続して行っている難病のこどもとそのご家族の支援と合わせて、ひとりでも多くのこどもたちの笑顔を守るため、僕にできることを考えながら戦っていきたく思います。



<武隈投手の支援内容>

・いじめを無くすための活動を支援(新規)

2022シーズンの公式戦において、自身が登板した数につき2万円を積み立て、合計金額の半分をいじめ撲滅活動を行う団体に寄付(予定)。

・難病のこどもとそのご家族を支援(2020シーズンより継続)

2022シーズンの公式戦において、自身が登板した試合ごとに2万円を積み立て、合計金額の半分を「公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を」へ寄付。

【お客さまのお問合せ先】

埼玉西武ライオンズインフォメーションセンター TEL. (0570) 01-1950 (平日 10時～18時)
一軍公式線非開催日(平日 10時～18時)※一軍公式戦の開催がない土・日・祝は休日となります。
一軍公式戦開催日のナイターゲーム(10時～20時)/一軍公式戦開催日のデーゲーム(10時～18時)

【2022 シーズンの選手の社会貢献活動について】

選手	内容
今井達也投手	所沢市の知的障がい児や肢体不自由児を支援(2020 シーズン～) 教育・福祉・生活・労働・医療への理解を高めていただく活動を目的とする『所沢市手をつなぐ親の会』を支援。
増田達至投手	NICU(新生児集中治療管理室)病棟を支援(2018 シーズン～) 今シーズンの公式戦で登板した試合ごとに 2 万円を積み立て、増田投手のこどもが治療を受けた「大阪母子医療センター」などに寄付・寄贈。
	「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を支援(2019 シーズン～) ※ 今シーズンの公式戦で登板した試合ごとに 1 万円を積み立て、家から遠く離れた病院に入院しているこどもの治療に付き添うご家族のための滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま」へ寄付。
平井克典投手	地元愛知県一宮市の小学校ヘティーボールセットを寄贈(2022 シーズンより活動内容を変更) 野球の競技者人口の拡大のため、今シーズンの公式戦において自身が登板するごとに 1 万円を積み立て、野球用具を一宮市内の小学校に寄贈。
佐々木健投手	「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を支援(2022 シーズン～) ※ 家から遠く離れた病院に入院しているこどもの治療に付き添うご家族のための滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま」へ寄付(内容は非公表)。
内海哲也投手 兼投手コーチ	児童養護施設のこどもたちヘランドセルを寄贈(2009 シーズン～) 今シーズンの公式戦において自身の投球イニング数ごとに 1 つずつ、埼玉県内外の児童養護施設で生活する 2023 年度の新 1 年生に寄贈。
佐野泰雄投手	「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を支援(2021 シーズン～) ※ 家から遠く離れた病院に入院しているこどもの治療に付き添うご家族のための滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま」へ寄付(内容は非公表)。
平良海馬投手	こどもたちの居場所づくりを支援(2022 シーズンより活動内容を変更) 今シーズンの公式戦において自身が登板するごとに 1 万円を積み立て、合計金額の半分の社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会の「こども食堂・未来応援基金」へ、残りの半分の平良投手の出身地である沖縄県の社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会へ寄付。
森友哉選手	持続可能な社会実現のための環境支援(2020 シーズン～) 今シーズンの公式戦において自身が安打を記録するごとに 1 万円を積み立て、合計金額の半分の埼玉県の『彩の国みどりの基金』へ、残りの半分の森選手の出身地の大阪府堺市の『堺市はなみどり基金』に寄付。
	所沢市の知的障がい児や肢体不自由児を支援(2020 シーズン～) 教育・福祉・生活・労働・医療への理解を高めていただく活動を目的とする『所沢市手をつなぐ親の会』を支援。
山川穂高選手	持続可能な社会実現のための環境支援(2020 シーズン～) 今シーズンの公式戦において 1 打点につき 1 万円を積み立て、合計金額の半分の埼玉県の「彩の国みどりの基金」へ、残りの半分の山川選手の出身地の「公益社団法人沖縄県緑化推進委員会」に寄付。
外崎修汰選手	地元弘前市の保育施設ヘ T ボールセットを寄贈(2021 シーズン～) 今シーズンの公式戦において、自身が盗塁を決めるごとに 2 万円を積み立て、合計金額の半分で外崎選手の出身地である青森県弘前市野球協会に T ボールセットを寄贈。
	こども食堂をはじめとしたこどもたちの居場所づくりを支援(2019 シーズン～) 今シーズンの公式戦において、自身が盗塁を決めるごとに 2 万円を積み立て、合計金額の半分の所沢市社会福祉協議会の「所沢市こども未来基金」に寄付。
中村剛也選手	「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を支援(2010 シーズン～) ※ 今シーズンの公式戦において自身が出場した試合数ごとに 1 万円を積み立て、家から遠く離れた病院に入院しているこどもの治療に付き添うご家族のための滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま」へ寄付。
栗山巧選手	小児がんのこどもとそのご家族を支援(2014 シーズン～) 小児がんのこどもとそのご家族の主催試合へ招待していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が困難なため、全国の 4 つの小児病棟に必要としている物品を 10 万円分ずつ寄贈(予定)。
	所沢市の知的障がい児や肢体不自由児を支援(2006 年～) 「所沢市手をつなぐ親の会」へのドームの年間予約席を寄付する活動を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のより実施が困難なため、代わって 10 万円分の物品を寄贈(予定)。

※増田投手、佐々木投手、佐野投手、中村選手は一般社団法人日本プロ野球選手会の協力のもとで活動しています。